

浜松・四ツ池公園再整備

新陸上競技場市が配置案

四ツ池公園運動施設(浜松市中区)の老朽化した陸上競技場と市営浜松球場の改修の在り方を検討している同市は4日、市議会大型公共施設建設調査特別委員会に、国際大会などを開催できる観客席2万6千人規模の第1種公認陸上競技場を設けた場合のレイアウト案を示した。現在の陸上競技場は補助競技場とし、プロ野球も開催している浜松球場と第2球場は現在地では存続しない形となる。

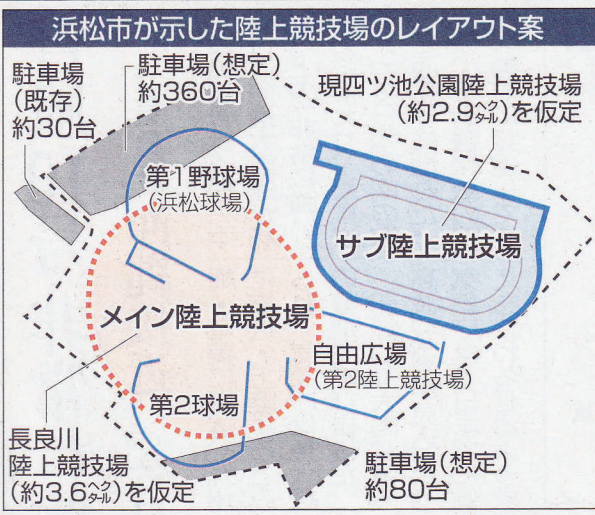
陸上競技場と浜松球場はともに建設から40年以上が経過している。両施設とも改修すれば専有面積の増大が不可避で、新施設を公

園内に共存させることは困難とされる。市は「あくまで一つの案。浜松球場の存続断念を意味するものではない」と強調した。浜松

市では県が新球場の建設を計画中で、特別委はこれも踏まえつつ浜松球場の存続可能性を改めて協議する。レイアウト案は浜松

同公園運動施設の再整備は、市議会が改選された2019年度から同特別委で先に陸上競技場の規模や立地から検討を進め、この日初めて具体的なレイアウト案が示された。市は20年度末までに同公園の再整備方針を策定する方針。

(浜松総局・瀬島義孝)



浜松市が整備に向けたレイアウト案を示した四ツ池公園陸上競技場＝4日午前、同市中区

を求めた。球場を残す案は排除していない」として理解を求めた。

県が構想する野球場は遠州灘海浜公園篠原地区(西区)で検討されているが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う県の財政見直しもあり、具体的な方向性は定まっていない。委員からは「陸上競技場のみを整備するイメージが先行してしまわないか」と懸念の声も上がった。戸田誠委員長(自民党浜松)は「野球場を残す案は排除しない」として理解を求めた。